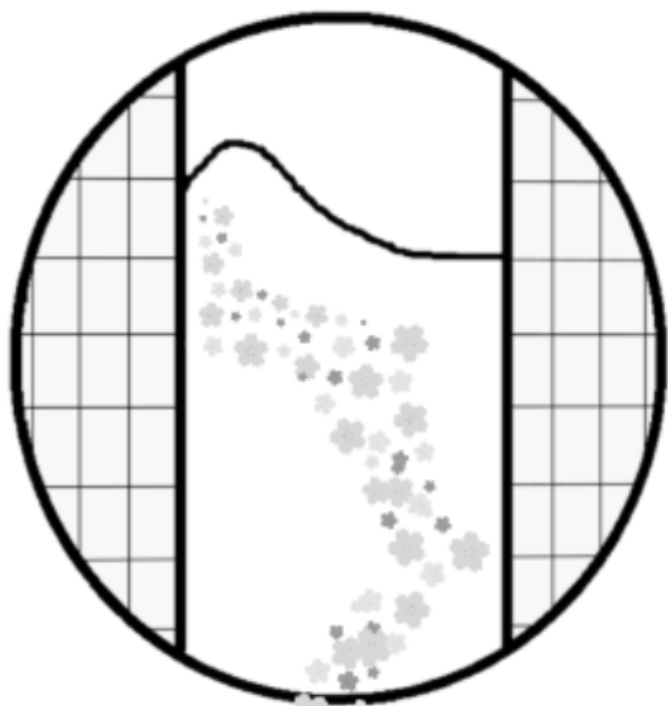


令和四年度 論文コンクール
「わたしはこう考える」

優秀作品集



京都市・区明るい選挙推進協議会
京都市・区選挙管理委員会



は じ め に

京都市・区明るい選挙推進協議会及び京都市・区選挙管理委員会では、青少年を対象に政治や選挙に関心を持っていたくために、毎年、論文コンクール「わたしはこう考える」を実施しております。五十一回目を迎えた令和四年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による困難な状況が続く中で、二十四校から八八一点の御応募をいただきました。この中から、最優秀賞及び優秀賞に選ばれた十一点の作品をここに御紹介いたします。

なお、入賞となられた方々につきましては、お名前と学校名、学年を掲載させていただきました。作品募集にあたりまして、御後援いただきました京都新聞、京都府私立中学高等学校連合会及び京都市教育委員会の皆様の御協力に対しまして厚く御礼申し上げます。

また、作品の審査を務めていただきました審査員の皆様に対しましても深く謝意を表する次第であります。

令和五年二月

京都市・区明るい選挙推進協議会
京都市・区選挙管理委員会

目次

掲載作品

テーマ「十八歳選挙権、わたしはこう使う」

最優秀賞 丹羽 彩弥乃 (京都市立開晴小中学校8年) 一
優秀賞 藤田 和葉 (京都市立加茂川中学校1年) 二

テーマ「こんな京都に住みたい」

最優秀賞 梅岡 航大 (京都市立藤森中学校2年) 三

テーマ「消費者としての私たちの責任／持続可能な社会のために」

最優秀賞 若松 朱璃 (京都市立太秦中学校2年) 四
優秀賞 青木 美波 (京都市立藤森中学校1年) 五
優秀賞 宮本 真琴 (京都市立二条中学校3年) 六
優秀賞 谷口 遥香 (京都女子高等学校2年) 七

テーマ「新しい文房具『タブレット』／これからの授業、これからの学び」

最優秀賞 山田 小真子 (京都市立下鴨中学校3年) 八

テーマ「世界平和を考える」

最優秀賞 仲 水蓮 (京都市立北野中学校3年) 九
優秀賞 小島 真萌 (京都市立加茂川中学校1年) 十

入賞者一覧 十一

講評 十二
京都市教育委員会 主任指導主事 東谷 祐子

十八歳選挙権 私はどう使う

丹羽 彩 弥 乃

(京都市立開晴小中学校8年)

私にとって政治はとても難しく、遠い存在のもので正直、興味を持ったことはない。そして選挙なんてまだまだ先のことだと思っていた。しかし最近、一歳年上の兄が十八歳になったら成人だとか選挙権があるという話をしているのを聞いて、人ごとではなく自分のこととして少しずつ考えるようになった。

私の母は「選挙に行っても何も変わらないから行く意味がない。」と言って選挙に行っていない。私はそれは違うのではないかと思う。選挙権が十八歳に引き下げられた。なぜ引き下げられたのかを考えたときにまず思ったことは、「より若い世代の新鮮な意見や考えを反映させて、みんなですらによい社会を作ることができるようにするため」ではないかということだ。そのためには、私自身がもつと政治に興味や関心を持ち、まずは今自分が住んでいる京都を客観的に見てみて、そこから日本全体の社会のあり方や動きを知り、この政策はおかしいと疑問を持ったり、この意見には賛同できる、できないという自分の考えを明確に持つことが大切だということに気がついた。七月八日に安倍元総理が亡くなった。安倍さんが撃たれ倒れている映像をテイクストックで何度も目にした。それは私にとつてとても衝撃的な出来事だった。安倍さんが亡くなった数日後に選挙があり、今まで選挙に行かなかった母が選挙に行く姿を初めて見た。母なりに何か考えることがあったのだろう。政治に関してわ

からないことばかりで、政治家に対する印象は、率直に言って年配の偉そうな態度の人ばかりだなということだ。そのような政治家の高圧的な態度では、若い世代には受け入れられないと私は考える。まず、若者と政治、政治家との距離を近く感じられるように若者にもっと目を向けてほしい。今の日本は、少子高齢化社会。そして、これからの高齢者を支えるのは私たち若者。若者がよりよい学びをできる環境作り、つまり、学びたいと思う若者が平等に学べる機会を与えてほしい。また、就職を目指す若者にも、安定した雇用と収入が得られるように真剣に取り組んでほしい。少なくとも今の日本には、不安ばかりで魅力を感じることはない。同じ政治家同士で罵り合い、争う姿を見ている若い世代は政治からどんどん距離ができ、その結果、若者の声を政治に反映できなくなるのではないだろうか。私は十八歳選挙権を無駄にしたくない。十八歳までの時間をただ楽しく過ごすのではなく、より政治に関心を持ち、少しでも日本の現状を知り、自分の意見を自信を持って伝えられる人になる準備期間にしたい。十八歳選挙権を通して、自分の考えを表現することの重要性に気づくきっかけになった。政治家に期待するばかりではなく、私自身が社会に少しでも貢献できるように視野を広げて積極的ににより多くのことを学び、成長していきたいと思う。

十八歳選挙権 私はこう使う

藤田 和葉

(京都市立加茂川中学校1年)

私は、選挙権が二十歳から十八歳に引き下げられたことに賛成する。

なぜなら、若い人の投票率が年々減少しているからだ。平成十九年度に行われた衆議院議員総選挙では、六十代の投票率は約七十二パーセントだったのに対し、二十代の投票率は約三十四パーセントと六十代の半分以下であることを調べて知った。ただでさえ少子高齢化が進んでいる日本で、このままだと政治が高齢者寄りになり、若い人の求めていることが反映されにくい社会になってしまう恐れがある。自分自身は考えた。しかし、十八歳から選挙権を与えることで、未来の日本を創造していく若者たちの投票率が上がり、それにより他の世代からも政治への関心が広がるのではないかと思った。さらに、自分の考えをしつかりと持つきっかけにもなると思う。なので私は、十八歳選挙権に賛成だ。

だが、実際に十八歳で自分が投票するとなったとき、気を付けないといけないと考えたことが二つある。一つ目は、有名人候補者(タレント議員)への投票に偏ってしまう可能性があることだ。インターネットでよく見る人に投票したくなるのだと思う。しかし、政治家として、社会に貢献してくれる人物かをしつかり見る必要がある。二つ目は、正しい知識をつけることだと思う。偏見やインターネットだけで調べた情報で投票せずに、いろいろな情報や視点を試し、

投票しようと思う。もうすぐ十八歳になる姉がいるが、私に比べ、日本の政治や国際情勢に詳しく、正確に情報を得ていた。私もこれからしつかり勉強し、見聞を広め、姉を見習おうと思う。

また、十八歳選挙権について、ここを改善したほうが良いのではないかと自分の考えがある。それは、同じ高校三年生でも十七歳か十八歳かで投票できない人がいる点である。学校で同じ勉強をしてきているのに、年齢での差で投票権の有無が分かれるのはおかしいと思う。十八歳からではなく、高校三年生からなど、基準を変えればより良いと思った。

今回、調べたり考えたりして、デメリットも少しあるけれど、十八歳選挙権は若者が社会に意見を出し、暮らしを良くするためのとても良い物なんだと分かった。だからこそ、その一票を大切に、しつかりと考え公平に選挙を行うこと、その一人一人の積み重なりが日本の未来を変えるんだと思う。今日考えたことを忘れないようにして、五年後自分の選挙権を得たときに、必ず選挙に行き、貴重な一票を投じたい。

こんな京都に住みたい

梅岡 航大

(京都市立藤森中学校2年)

私は、最近夢中になっているものがある。それは、ロードバイクやマウンテンバイクなど、自転車に乗って走ることだ。

夏休み中は、伏見から八幡にあるさくらであい館まで、往復二十キロをほぼ毎日のように走っている。七月には、三日間かけてビワイチ(自転車での琵琶湖一周・約二百キロ)を完走した。

京都や他府県を多くサイクリングしていると、感じるいろいろなところがある。そこで、自転車という切り口から「こんな京都に住みたい」を考えたい。

そもそも、自転車には良いところが多くある。具体的には、ガソリンや電気を使わず、二酸化炭素を出さないので地球環境に良い。また、コロナ禍でも移動で密になることがない。体への負担も少なく長い時間運動ができるので、健康にも良い。そして何よりも、風を切って走ることがとても気持ちがいい。

そんな自転車と京都は相性が良い。例えば、京都市内は平坦な道が多く、初心者にも走りやすい。桂川や鴨川など川沿いの道を使つて、楽に観光名所に行き着ける。また、京都には観光名所が数え切れないほどあるが、公共交通機関や車での移動に比べて小回りがきき、一度にたくさん回ることができる。

一方で、良くないと思うところもある。京都に限ったことではないかもしれないが、道路は工事が多くて凹凸があり、路上駐車も多

くて、自転車で走りにくいときが結構ある。また、自転車を横に並んで走行して通れなかったり、信号を無視するなど、マナーが悪い人もいる。

私が考える「住みたい京都」は、自転車をもっと身近に、もっと活用する都市だ。具体的に考えた方策が三つある。

一つ目は、公共レンタサイクルの仕組みを創ることだ。例えば、京都市の姉妹都市で、同じく観光都市パリのレンタサイクル「ヴェリブ」が参考になる。自転車のステーションが市内の千七百箇所以上に設置され、二万三千台以上の自転車が生活や観光に活用されている。最初の三十分間は無料のため使いやすく、市内の渋滞解消や環境保護に繋がっている。

二つ目は、サイクリスト目線の道路整備だ。車にとっては大したことのない凹凸でも、自転車にとってはとても走りにくくて危険なものとなる。凹凸をなくした安全な道路整備が必要だ。あわせて、分かりやすく快適なサイクリングルートや給水スポットを増やすことができれば、地域もより活性化する。

三つ目は、自転車に乗る人のマナーの向上だ。例えば、京都市営の地下鉄やバス、観光案内所にマナー啓発の広告を出したり、幅広い世代で楽しみながらマナーを学べるイベントを実施することが考えられる。

このように、日々感じていることを考えることが、新しい京都づくりに繋がつてくる。私はこれからも考えていきたい。

消費者としての私たちの責任

持続可能な社会のために

— 今を考え未来を創る —

若松 朱璃

(京都市立太秦中学校2年)

私の祖父は、長崎県の対馬という離島で漁師をしています。あかむつ(のどぐろ)やアラ(くえ)、ほしかり(あらかぶ)に穴子等々、玄界難の豊かな海の恵みを得て生計を立てています。海からの恵みはそれだけではありません。私は小学生の頃よく祖母と近所の海岸に出かけ、きれいな貝殻や波で磨かれた角の取れたシーグラス、宝石のようにキラキラ光る小石を拾い、ネックレスやブローチ作りを楽しみました。母や叔母とは海水浴を楽しみました。また、叔父は私が生まれたときに、お祝いにとても大きな鯛を贈ってくれました。そんな私の身近にある「海」は、いつも豊かで穏やかな幸せをもたらしてくれています。

そんな海に今、異変が起きています。「マイクロプラスチック」です。マイクロプラスチックとは、五ミリメートル以下のとても小さなプラスチックのことで、街で捨てられたペットボトルやビニール袋が溝などから川を伝って海へ流出し、波で砕かれマイクロサイズになったものです。この人工的に作られたプラスチックは、自然分解されるのは百年から二百年かかるそうで、現時点では回収も困難のようです。海に流出して浮遊し、たまり続けるマイクロプラス

チック、これが海の生き物に取り込まれるとどんな影響を及ぼすのでしょうか。海の生態系は少しずつバランスを崩しています。

海が身近だった私はこの問題を知り、自分に何ができるのか考えました。プラスチックは丈夫で便利な生活に欠かせないもの、自然に優しいプラスチックはないのかと考え調べてみると、牛乳とお酢で作るプラスチックがあることを知り、夏休みの理科の課題として実験し、レポートにまとめました。私の取り組みは、世界の環境問題を大きく変えるものではありません。しかし、ここで一番大切なことに気がつきました。「考えること」です。学者のように知識のない中学生の私でも、彼らと同じように、問題意識を持ち「考えること」はできます。小さな一歩を「考えること」から始めてみて下さい。

最近では、カフェで紙のストローや、木のスプーン、フォークなどが使われるようになりました。鼻にストローが刺さったウミガメを見た人が「考えて」、小さな一歩を踏み出した結果と考えます。私は、海の生き物にも、海の中で沢山の幸せを感じてほしいのです。そして、私と同じように、「考え」、小さな一歩を踏み出している世界中の仲間が繋がり、一つになることで大きな問題を解決することができると私は信じています。そのためにも、問題意識を持ち、考え続けていこうと思います。

消費者としての私たちの責任

持続可能な社会のために

―考える・知る・行動すること―

青木 美波

(京都市立藤森中学校1年)

「消費者」。この言葉を聞いて私は初めに、「私には関係ない」と思いました。しかし、念のために意味を調べてみると、「商品やサービスの購入者」または「企業が供給する商品やサービスの、最終的な使用者」と出てきました。この意味を踏まえて改めて考えると、「関係ないことなんてない、意外と関係あるんだ」と思いました。

私自身も、この言葉の意味を知ったうえで、この論文のテーマである「持続可能な社会のための消費者としての私たちの責任」について考えました。考えているうちに、何が「消費者の責任」なのか疑問に思いました。すると、「無駄にしないことが消費者の責任だ」という考えになりました。

そこで私は、どこまで自分が消費者として責任を持って過ごしていたのか振り返ることにしました。すると、何も責任を感じずに過ごしていたことに気付きました。しかし、何が責任なのかを考えてからは、「私は消費者だ。無駄にしないことが責任だ」と思い、今まで感じなかったプレッシャーを感じるようになっていました。そのおかげか、買い物するときなどに「無駄な消費をしないこと」を意識

するようになりました。

例えば、出かけるときには、ペットボトルを買わないようにするために水筒を持って行ったり、レジ袋を買わないようにするためにエコバックを持って行ったり、使い切れる分だけの食材を買ったりなどです。

私のように何が「消費者の責任」なのかを疑問に思っている人もいるかと思います。そう思っている人は、ぜひ、そのことについて自分で考えてみてください。自分で考えてみると、考える前には感じなかったプレッシャーを感じると思います。しかし、そのプレッシャーは良いものです。感じることで、「消費者の責任」を自然と理解できるようになると思います。

その責任を理解すると、それにつられて少しの事でも行動が変わっていきます。行動がどのように変わるかは人それぞれなのでしょうが、一人一人の行動が変われば、必ず持続可能な社会への第一歩となります。

持続可能な社会へ向けて、まず知らないことや疑問に思っていることを「考える」「知る」ことが今までの自分の考えを少しでも変えてくれると思います。そのうえで、今までの自分の行動を振り返り、これからの「行動」へと変えていくことが持続可能な社会へと繋がると思います。また、一人一人が「消費者」であることを知り、その責任を理解していくことで、限られた資源を有効に使えるようになると思います。

消費者としての私たちの責任

持続可能な社会のために

— All - Win のために —

宮本 真琴

(京都市立二条中学校3年)

私には、大好きなチョコレート店がある。高いので、購入するのは時々だ。普段はスーパーの手頃な価格のチョコレートを選ぶ。安くて美味しいから最高だ。

ある日、この価格差に疑問を持ち、例のチョコレート店のホームページを検索した。「生産者・消費者・環境。みんなが笑顔になれるチョコレートを作りたい」とあった。この言葉に私は、自分の幸せだけを考えて消費者だと気付かされた。同時に、生産者の現状を知りたいと思った。

日本は、世界でも有数のチョコレート消費国だ。その原料であるカカオの栽培は、児童労働で成り立っている。小学生ほどの子ども達が、十メートル以上もある不安定な木によじ登り、カカオの実を片手で何度も回しながらねじり取り、収穫する。命がけの大変な作業だ。農園主が言った。「生きるために働くのは当たり前。木から落ちて怪我をしても、それは自分の責任だ。」と。こんな小さな子ども達が、私の手元にあるチョコレートと繋がっているのかと思うと、言いようのない悲しみを覚えた。子ども達は、仕事辛い、学校に行きたいと泣いていた。この姿を見て生産者の人々も幸せであ

ってほしいと強く思った。

では、生産者の人々が幸せになるにはどうしたら良いか。そのためには、カカオが適正な価格で継続的に取引され、生産者の生活が安定することが不可欠だそうだ。All-winを目指すこの店は、自社契約農家からカカオを仕入れている。現地で技術指導も行い、高い買い取り価格を維持することで、収入が倍以上になった生産者もいる。収入が安定すると生活が向上する。産地に希望が生まれ、生産者の幸せがそこにあった。このような企業が産地と取引をすれば、児童労働が減るのではないか。児童労働が起きる原因の一つは貧困だ。貧困家庭は子供の収入に依存している。親の収入や子ども自身の収入が増えれば、児童労働をすぐになくすることはできなくても、労働時間の短縮は可能かもしれない。

私にできることは、このような取り組みをする企業の商品を高くても買うことだ。これは消費者として簡単なことではない。何故なら、経済的な余裕がないとできないからだ。でも、安価なチョコレートを買う頻度を少なくして、良いチョコレートを買うなど工夫をすることはできる。このような消費者の選択が、企業を変え、社会を変えるのだと思う。

大手の企業も人権への取り組みを始めている。私はチョコレート売り上げの一部で産地の子ども達の教育を支援するという企業を応援したいと思った。消費者である私たちがより良い社会のために責任のある選択をすることで、産地の子ども達の生活が少しでも向上してくれることを心から願う。

消費者としての私たちの責任

〈持続可能な社会のために〉

谷 口 遥 香

(京都女子高等学校2年)

持続可能な社会にするために責任ある消費者としてできることは、消費者をやめることだと考える。

それはモノを買わないとか、エネルギーを含め完全な自給自足生活を目指すということではない。今日までの文明や発展、開発の成果の全てから離れた生活はできないだろう。私が提案したいのは、消費するだけの消費者という受け身なあり方から脱却して、本当に欲しいものを求めて主体的に行動する存在になることだ。

私たちは普段、モノやサービスを購入して生活している。それは膨大とはいえ、提供される限りある選択肢の中から選ぶという受け身なものだ。選択肢を増やすために大量生産し、それらを購入、消費して大量廃棄しているものも大きな問題だ。これは、私たちが本当に欲しいものだけ選んでいるのではないからだ。流行のものを安価で試してみたい、新しいものを買う方が早いなどが動機であり、その商品が自分が生きるために本当に欲しいのかという生き方の問題として買い物を考えたり、つくられた労働環境や自然環境への影響などまで考えて購入している人は、私も含めて少ないだろう。しかし、考えてみれば購入は投票行為だ。私たちが何をかうかで次の製品の数やデザインは決められていく。私たちが環境や人権に

配慮した製品、品質の良い製品を購入すれば、そのような商品が増える。ならば本当に欲しいものだけを買って、不適当な生産がなくなるように働きかけるべきだ。自分たちの一時的な満足だけ考えてお金を払ってはいけけない。自分にとって本当に欲しいもの、必要なものとは、すぐに飽きてしまうものや他人、他の生き物、環境を犠牲にしてつくられたものではないはずだ。商品がどのようにつくられてきたのかまで考え、慎重に購入することで、産業も持続可能な良い形にしていけると思う。小さいかもしれないが、私たちは現状を動かす力を持っているのだ。

夏休みにSDGsについて根本的に考えるために、目標をはじめSDGsについて様々な角度から調べた。二〇三〇年という設定期間内に達成するのは難しそうだ。しかし、目標は他人任せでは決して達成できないものだ。目標十二「つくる責任つかう責任」や目標十「人や国の不平等をなくそう」など、モノの買い方で私たちが達成に貢献できそうな目標もある。小さい選択の積み重ねだが、多くの人が持続可能性に繋がるモノを買うことを心がければ、大きく社会が動く。それだけの力を消費者は持っているのだ。どんなことも自分で考えて、主体的に行動することが、消費者として責任を持つことだと考える。

新しい文房具「タブレット」

～これからの授業、これからの学び～

山田 小真子

(京都市立下鴨中学校3年)

「タブレット」。多くの学校でこの電子機器が導入され、授業でも使う機会が多くなってきている。最近では、タブレットを入れるためのポケットがついているランドセルも登場しているようで、その影響力には驚くことも多い。

確かに、とても便利なものだ。欲しい情報が一瞬で手に入るし、自分の調べた事柄や自分の意見をより多くの人に発表することもできる。今までプリントとして配られていたものも、タブレット上で見られるようになったことで、印刷する手間が省け、環境にもよくなった。機械が苦手な私は、タブレットの導入に最初はとまどっていたが、慣れると使いやすく、便利さを実感している。

しかし、良いことばかりではない。タブレットを使えば情報がすぐ手に入るということは、考えなくても答えがわかってしまうということだ。さらに、インターネット上はたくさんさんの情報であふれている。その中には、正しい情報もあれば、間違っている情報もある。間違っている情報にまどわされ、思わぬ失敗につながることもある。だからこそ、「考える力」がこれからの学びで大切になると私は考える。調べて得た答えをただ写すだけでは、学んだとはいえない。自分の考えをもたないロボットになってしまう。考え、答えを追求

していくのは私たち人であり、タブレットはそれを支えるにすぎない。この関係が逆転したとき、人はコンピューターに負けるのだと思う。

私たちの英語の授業では、文章を書くとき、タブレットを使用し、てよいことになっている。よって、単語などがわからないときに、インターネットの翻訳機能を使うことができる。とても便利だ。しかし、問題もある。コンピューターは感情をもたない。相手にわかりやすい言葉、ていねいな言葉を選択するかはわからないのだ。ここで私が心がけているのは、考えること。計算をすることなら、人よりもコンピューターの方が何倍も得意だ。しかし、言葉は思いを伝えるものだ。読む人のことを考え、言葉や言い方を選ぶこと。それはやはり、人にしかできない。

これからの授業は、もつともつと進化していくだろう。タブレットは、私たちの学びをさらに深め、楽しいものにしていくと思う。世界中の人々とながつて、授業ができる日も近いのかもしれない。しかし、その便利さに頼りすぎでは、人は成長しない。タブレットは新しい学びの扉を開くための鍵になるが、それを開くのは、私たち人なのだ。

世界平和を考える

―世界平和の目的―

仲 水蓮

(京都市立北野中学校3年)

世界平和は地球に生きる人全員が望んでいるものではない。猫も杓子も世界平和を願うならば、とうの昔に争いを止めているはずなのだ。実際に、ロシア・ウクライナの間起こっている問題は、ニュースで話題になった当初の私の想像をはるかに超える深刻なものになった。しかし、現代の日本人の過半数が平和を祈り、戦争を二度と起こしてはいけないと口にする。どのような条件で世界平和は達成されるのか。また、世界平和は何のために求められるのか。

社会科の授業中、戦争をする人は勝って利益を得ることが目的だ、と述べた人がいた。これに対し、戦争をビジネスとして使い儲けることができたとして、わざわざ負けるリスクがあることをするのか、という疑問が生まれた。頭のいい人は戦争よりもリスクハイリターンなお金儲けの仕方を知っている気がしたからだ。「なんでそこで戦争を選ぶんやろ。苦しくなるだけやん。」そう思い、戦争を選択する理由を考えた。それは、「選んだ人自身は戦わない」からなのではないか。決断して、命令をする。高い地位についている人は、兵隊や国民を駒として利用するため、物理的な攻撃からは免れることができる。もし負けてしまっても、

財産を失うのは自分ではない。勝てば大きな富や評価を得ることができる。私が社会科の授業中に出した結論。それは、独裁的地位の高い人ほど戦争を望み、自分自身は勝敗に関係なくローリスクハイリターンな結果を手に入れられるということだ。

世界が平和になるには、すべての争いをなくせばよいのだろうか。企業同士が売り上げを競うために研究を重ねたり、点数を取り合うスポーツで人々が熱狂したり。争いは本来、よりよい生活のために行われていることなのだ。私たちが恐れる「戦争」や「喧嘩」などといった争いとは「目的」が違うのだ。つまり、誰かに集中して利益を集めるための戦争や、感情に任せた自己満足な喧嘩などを止めれば、世界平和を達成できるのではないだろうか。

世界平和を願う人の目的は何か。私は今年、七夕の短冊に「世界平和」と書いた。それは、ニュースでロシア・ウクライナ問題や北朝鮮からのミサイルなどについて耳にするたびに、漠然と恐怖を覚えたからだ。幼いころから、「戦争は恐ろしいものだ。たくさんの人が酷い目にあったんだ。」と教わってきた私は、いつの間にか平和を望むようになった。世界平和の目的は、私のように怯える人をなくすためなのではないか。いつ自分の命が奪われるのかわからない。飛行機や車の音にも安心できない。もし、自分が住む京都で戦争が行われたら、私たちの生活はこのように一変するだろう。だから私にとって「世界平和」は、何の心配もなく未来を想像できる世の中にするために実現すべきものと考えてる。

世界平和を考える

小島 真萌

(京都市立加茂川中学校1年)

世界平和を願わない人などこの世にいるのだろうか？少なくとも、世界の多くの人たちは世界平和を願っているに違いない。世界平和に繋がる要素として挙げられるのは、戦争のない世界、生活の格差(貧困)のない社会、人種差別のない社会、ウイルスによる恐怖のない世界などがあるが、その中でも私が最も関心を持った事は貧困であった。

世界の貧困は今、七億六千七百万人、つまり十人に一人が極度の貧困状態にあると言われている。それに、その約半数が子供である。自分は、食べたい時に食べることができたり、寝たい時に寝ることができたり、今この時間も貧困に苦しんでいる人と自分を比べると、さらにこの環境に感謝しなければならぬと思った。

貧困の解決策としては、ただ、募金や寄付の金銭的援助だけではダメだと思う。それは、今日の食事をとることができない人たちに有効であり、明日へ生き延びる手段としてはとても大切なことだが、この先、貧困で苦しむ人たちが自分達の力でお金を稼ぐことのできる仕組みが必要だと思う。貧困の多くは、発展途上国など産業がない地域で起きやすい。そこに働くことのできる会社や施設をつくり、そこで働くことにより賃金を得て、お金を生み出す。そのお金を使い、食べるものを購入し、生きることへ繋げる。生活必需品を購入できる店舗、そこで働く人も出来る。子供

たちがお腹いっぱいご飯を食べられる世界を目指したい。そのためには、先進国の企業に途上国の産業化へ協力してもらいたい。私の思う「こうなったらいいのにな」の世界は、このコツコツとした社会の仕組みづくりからだと考える。

中学生の私には今すぐ世界の貧困についてアプローチすることは難しく、まずは、私の住んでいる国日本、私の住んでいる地域から貧困だけでなく、困っている人などに気づける目を持ちたい。私たち中学生が今すぐできることは、「気づき」の目を持ち、地域の助けとなること。毎日の登下校での近所の人への挨拶やクラスメイトとの会話をしながら感じることに。一日一日を大切に丁寧に生きていることが、私の思う「こうなったらいいのにな」の社会へ繋がるのではないかなと考える。

まずは、地域のサポーターとして、困っている人がいないか、一人暮らしの老人に変化はないかなど、見守りと気づきの目を持ち、生活していくことが、「世界平和」への第一歩だと私は考える。

入賞者一覧

△テーマ別、最優秀賞・優秀賞・入選の別、学年、氏名の五十音順

◆…最優秀賞 ◇…優秀賞 マーク無…入選

「十八歳選挙権 わたしはこう使う」

- ◆丹羽 彩弥乃 (京都市立開晴小中学校8年)
◇藤田 和葉 (京都市立加茂川中学校1年)
小玉 すみれ (京都市立西ノ京中学校1年)
今村 麗音 (京都市立下鴨中学校3年)
鈴鹿 眞大 (洛南高等学校附属中学校3年)
山岸 慶乃 (京都市立西京高等学校附属中学校3年)

「こんな京都に住みたい」

- ◆梅岡 航大 (京都市立藤森中学校2年)
飯田 唯月 (京都市立加茂川中学校1年)
竹内 慈温 (京都市立上京中学校1年)
津田 麟太郎 (京都市立加茂川中学校1年)
藤井 貴子 (京都市立太秦中学校1年)
森重 麻里乃 (京都市立加茂川中学校1年)
福宮 あおい (京都市立蜂ヶ岡中学校2年)
小林 奈央 (洛南高等学校附属中学校3年)
野口 志帆 (洛南高等学校附属中学校3年)

「消費者としての私たちの責任と持続可能な社会のために」

- ◆若松 朱璃 (京都市立太秦中学校2年)
◇青木 美波 (京都市立藤森中学校1年)
◇宮本 真琴 (京都市立二条中学校3年)
◇谷口 遥香 (京都女子高等学校2年)
宇治本 雅 (京都市立桃山中学校2年)

- 石田 菜都美 (京都市立下鴨中学校3年)
関口 栞 (京都市立下鴨中学校3年)
内藤 優 (京都市立藤森中学校3年)

「新しい文房具『タブレット』～これからの授業、これからの学び～」

- ◆山田 小真子 (京都市立下鴨中学校3年)
大島 暖 (京都市立加茂川中学校1年)
石本 律奈 (京都市立下鴨中学校3年)
川端 杏奈 (京都市立醍醐中学校3年)
澤野 亜希 (京都市立洛南中学校3年)
重松 葵 (京都市立西京高等学校附属中学校3年)
長澤 愛海 (洛南高等学校1年)
その他 1名

「世界平和を考える」

- ◆仲 水蓮 (京都市立北野中学校3年)
◇小島 真萌 (京都市立加茂川中学校1年)
池田 実乃里 (京都市立蜂ヶ岡中学校1年)
保田 凱至 (京都市立醍醐中学校1年)
大橋 海音 (京都市立藤森中学校2年)
藤田 渉寧 (京都市立蜂ヶ岡中学校2年)
堀井 咲良 (京都市立太秦中学校2年)
梅原 花歩 (京都市立二条中学校3年)
溝口 愛悠 (京都府立北嵯峨高等学校3年)

講評

令和四年度「論文コンクール」の審査を終えて

京都市教育委員会事務局学校指導課

主任指導主事 東谷 祐子

「さとうくん、つきがきらいとしようじきにかいたのはいいことです。でも、いまくろうしてたら、あとからきつと、よかつたなおもうようになりですよ。くろうというものはいいもんですよ。もつともつとくろうして、あなたのあたまをしようとうにしないさい。ぶんをかくことはしんどいことです。せんせいでもひとばんぶんをかいたら、はがたがたになりまます。ごはんをたべるといいたいです。さとうくんはぶんをかきおわったら、はがいたくなりますか。ならないでしょう、まだまだがんばれるとおもいます。」

灰谷健次郎「兔の眼」。主人公の小谷先生が、日記帳に「ぼくはつきがだいきらいだ」と書いてきた小学校一年生のさとうくんに向けて書いた返事です。大人になっても「書くこと」はしんどいし、苦勞します。今、この講評を書いている私も、とても苦勞しています。「なぜ、私たちは苦勞しながらも書くことをやめないのか。」みなさんの作品を読みながら、そんなことを考え、昔読んだ小説の一場面を思い出しました。講評を読みながら、ぜひ一緒にこの問いについて考えていただけたらと思います。

まず、苦勞して「書くこと」に真剣に向き合った八八一名のみなさんに敬意を表します。また、各学校で日頃からご指導くださっている先生方にも厚く御礼申し上げます。

今年度の応募状況は、中学生が八五九編、高校生の応募が二二編でした。また、それぞれのテーマの応募数は、テーマ1「十八歳選挙権、私はこう使う」が五九編、テーマ2「こんな京都に住みたい」が一九八編、テーマ3「消費者としての私たちの責任、持続可能な社会のために」が一〇五編、テーマ4「新しい文房具『タブレット』」これからの授業、これからの学び」が二四七編、テーマ5「世界平和を考える」が二二二編でした。

テーマ1「十八歳選挙権、私はこう使う」では、小学校、中学校、高等学校で学んだ民主主義について改めて考え、さらに新聞などの資料を参考にしながら学びを再構築した作品が多く、感心しました。地域のことから国家間の問題まで幅広く課題意識をもって考えようとする姿勢を今後も持ち続けてもらえたらと思います。最優秀賞の丹羽彩弥乃さん（京都市立開晴小中学校）の「同じ政治家同士で罵り合い、争う姿を見ている若い世代は政治からどんどん距離ができて、その結果、若者の声を政治に反映できなくなるのではないだろうか。」という訴えを聞いて、その通りだとうなずく大人は多いことでしょう。家族の選挙に対する行動や考え方、政治家の死をきっかけに、丹羽さんがどのようなことを感じ、課題として考えたのがとてもよく伝わってきました。「十八歳までの時間をただ楽しく過ごすのではなく、より政治に関心を持ち、少しでも日本の現状を知り、自分の意見を自信を持って伝えられる人になる準備期間にしたい。」という力強い言葉はとても頼もしく感じられました。

テーマ2「こんな京都に住みたい」では、多くの作品が伝統文化、歴史、寺社仏閣、観光などを切り口に、どのような京都に住みたいかを述べていました。その中で、最優秀賞の梅岡航大さん（京都市立藤森中学校）は、「自転車」を切り口に、新しい京都の姿を提案してくれました。実際にサイクリストの視点で京都の町を見直し、問題点に対して大人顔負けのリサーチ力（姉妹都市パリの状況など）で、具体的なアイデアを次々と繰り出す勢いのある文章は、とてもワクワクして読み進めることができました。日々感じていることをもとに、課題を見いだし、改善案など自分の意見を積み重ねていく書き方は、多くの中学生が参考にできるのではないのでしょうか。

テーマ3「消費者としての私たちの責任」持続可能な社会のために」では、今年は消費者としての責任という視点が提示されていたため、身近な消費行動とつなげて考えることができたようで、体験をもとに具体的な提案をしている作品が多く見受けられました。なかでも最優秀賞の若松朱璃さん（京都市立太秦中学校）は、祖父母の住む長崎県対馬の海の思い出から、マイクロプラスチックから派生する環境問題に目を向け、さらに自然に優しい牛乳とお酢で作るプラスチックについて調べ、理科の課題として実験レポートをまとめるという、まさに「考え行動する」ことの大切さについて論文を通して示してくれました。

テーマ4「新しい文房具『タブレット』」これからの授業、これからの学び」は、最も応募総数の多かったテーマでした。昨年度から本格的に小中学校でCIGA端末の活用が始まり、「学び方」が大きく変わりました。その黎明期に学びの中心にいるみなさんがどのように感じているのか関心の高いテーマでもあり、大変興味深く読ませていただきました。タブレットの目新しさに飛びつくのではなく、至って冷静に受けとめ、利点と欠点を分析し論じている作品が多く、驚かされました。「便利な道具の裏側で失ってしまうものがあるのではないか。」というものの見方は、これから急速に発達していく社会において大切な視点です。「タブレットは新しい学びの扉を開くための鍵になるが、それを開くのは、私たち人なのだ。」と最後に力強く書き切った最優秀賞の山田小真子さん（京都市立下鴨中学校）。今、生徒たちにどのような学びが必要か、試行錯誤しながら授業をしている先生たちに響く言葉ではないでしょうか。タブレットを使った授業の事例をもとに「言葉」を選択するときに「考えること」がいかに大切か、相手へのわかりやすさ、人にしかできない配慮について述べた文章は秀逸でした。

テーマ5「世界平和を考える」も、テーマ4に次いで応募数の多かったテーマでした。二月に始まったウクライナとロシアの戦争。現実起きてくる出来事を画面越しではありますが目の当たりにし、SNSでは、今、まさに被災している人、闘っている人のツイートから戦争の実態を知ること

ができる時代です。生々しい現実に対する、怒り、悲しみ、願い、祈り、さまざまな感情が原稿用紙を通して伝わってきました。最優秀賞の仲水蓮さん（京都市立北野中学校）は、社会科の授業をきっかけに、「なぜ人は戦争を始めるのか」「世界平和を願う人の目的は何か」という問いに真摯に向き合い、最後には漠然と感じる自らの恐怖心、世界平和を願うまっすぐな思いが綴られており、胸を打つものがありました。

全体を通して、一つだけ気になったことがあります。「情報の扱い方」についてです。作品の中には、地方自治体や企業が出しているパンフレットなどを引用という形ではなく、自分の言葉のように書き写しているものがありました。大変残念です。自分の考えを支える根拠として資料を集めることは大切なことです。しかし、論文として書きまとめるときには、自分の考えとそれを支える根拠となる資料や事実を整理して書く必要があります。特に、引用するときには、「」でくくって書きましょう。また、急速に情報化が進展する社会において、あらゆる媒体から得た情報を吟味したり、整理したりする力も必要です。このあたりは、生徒のみなさんも気をつけなければなりません。大人である私たちもアンテナを張って指導にあたっていきたいところです。

最初の問い「なぜ、私たちは苦勞しながらも書くことをやめないのか。」答えは、見つかったでしょうか。「書くこと」の根底には、当然ですが、「伝えたい」という強い思いがあります。今回は論文という形態でしたが、他にも、メール（「打つ」かもしれない）、手紙、随筆、俳句、物語、レポート…。どの文種であっても、誰かに何かを伝えたい、何かを表現したいという思いが私たちを突き動かすのでしょうか。さて、小谷先生の返事を讀んださとするくんは、その後、書くためにいろいろなところへ行きます。そして書きます。なまけ心が出てきたら、小谷先生の書いてくれたことを思い出し、また書きます。私たちは、もっともっと書けるはずです。苦勞して「書くこと」を続けてください。

令和4年度

論文コンクール

【わたしはこう考える】

作品募集

京都市・区明るい選挙推進協議会及び京都市・区選挙管理委員会では、次代を担う若い方に政治や選挙、身のまわりの問題について考え、意見を述べていただけるよう論文コンクールを実施しています。

この機会に、改めて社会に目を向けて、あなたが感じていること、言いたいことを自由に表現してみませんか？

テーマ

1. 18歳選挙権、わたしはこう使う
2. こんな京都に住みたい
3. 消費者としての私たちの責任
～持続可能な社会のために～
4. 新しい文房具「タブレット」
～これからの授業、これからの学び～
5. 世界平和を考える

応募資格

市内在住又は市内に通学・通勤している
令和5年3月31日現在中学生以上
19歳未満の方

字数 本文1,000字～1,200字厳守
(400字詰原稿用紙に縦書き)

原稿用紙の1行目にテーマ、2行目以降に
学校名・学年・氏名(ふりがな)を必ず
お書きください。
※生徒以外の方は、氏名・年齢・連絡先
電話番号をお書きください。

締切 令和4年9月16日(金) 必着

※提出された作品は返却しません。

入賞 主催者代表と学識経験者で審査を
行い、受賞作品を選定します。

●最優秀賞(5点)・・・賞状、副賞

●優秀賞(5点)・・・賞状、副賞

●入選(30点)・・・賞状、副賞

●京都新聞賞※(5点)・・・賞状

※最優秀賞の5点に京都新聞賞を授与
(京都新聞紙上に作品を掲載予定)

受賞者の学校名、学年、氏名及び最優秀賞、優秀
賞の作品を、京都市選挙管理委員会ホームペ
ージに掲載します。

提出先・問合せ

京都市選挙管理委員会事務局内

論文コンクール担当(電話 075-241-9250)

〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下
下丸屋町394 Y.J.Kビル6階

※提出は各学校を通じて又は直接、京都市選
挙管理委員会事務局へ送付してください。

ホームページ「選挙フレンズ」

& 「知ッテル!?選挙」

選挙について気軽に楽しく学べるホームページです。
選挙クイズや、SNSで使える「めいすいくんスタ
ンプ」画像のダウンロードなど、[選挙フレンズ](#) [検索](#)
コンテンツ盛りだくさん。

[知ッテル!?選挙](#) [検索](#)

《選挙クイズにチャレンジ》

Q. 参議院議員の任期は何年??

- A 3年
イ 4年
ウ 6年

答えは、「めいすいくん」が持っている
カードをみてね → → →



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

主催 京都市・区明るい選挙推進協議会 京都市・区選挙管理委員会
後援 京都新聞 京都府立中学高等学校連合会 京都市教育委員会
発行 令和4年6月 京都市選挙管理委員会事務局
京都市印刷物 第044178号

この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ!

明るい選挙のキャラクター
選挙のめいすいくん



わが国の選挙制度 しくみと歩み



日本の選挙制度が現在の様な形になるまでには、政治への参加を求めるたくさんの人たちの努力がありました。ここで、日本の選挙制度の変遷を振り返ってみましょう。

自由民権運動

大正デモクラシー

婦人参政権運動

軍部の台頭



1874 (明治7年)	板垣退助ら「民選議院設立建白書」を提出
1881 (明治14年)	国会を開設する旨の勅諭
1889 (明治22年)	大日本帝国憲法 を公布 議院法、衆議院議員選挙法、貴族院令を公布
1890 (明治23年)	第1回衆議院議員総選挙 の実施 300人の民選議員誕生 (選挙資格は「 満25歳以上、直接国税15円以上を納める男子 」→ 有権者数は 人口の約1%)
1900 (明治33年)	衆議院議員選挙法改正 (選挙資格は「 満25歳以上、直接国税10円以上を納める男子 」→ 有権者数は 人口の約2%)
1919 (大正8年)	治安警察法の公布 (社会主義的な活動禁止) 衆議院議員選挙法改正 (選挙資格は「 満25歳以上、直接国税3円以上を納める男子 」)
1925 (大正14年)	男子普通選挙制成立 (選挙資格は納税額に関係なく満25歳以上のすべての男子) 治安維持法公布
1928 (昭和3年)	第16回衆議院議員総選挙 (有権者数が 人口の20%を超える)
1929 (昭和4年)	ニューヨークの株式大暴落 → 世界的経済恐慌
1941 (昭和16年)	太平洋戦争勃発
1942 (昭和17年)	第21回衆議院議員総選挙 (軍部支持の翼賛政治体制協議会が推薦する候補者が議席の8割を占める)
1945 (昭和20年)	ポツダム宣言受諾 衆議院議員選挙法改正 (女性の参政を認め、 満20歳以上の全ての国民が選挙権を有する「完全な普通選挙」 が実現)
1946 (昭和21年)	日本国憲法 公布 貴族院の廃止
1950 (昭和25年)	各選挙法を一つにまとめた「公職選挙法」公布
1994 (平成6年)	公職選挙法改正 → 衆議院議員選挙に 小選挙区比例代表並立制 を採用 (70年ぶりの大改正)
1997 (平成9年)	公職選挙法改正 → 投票時間の延長等の投票環境向上策
1998 (平成10年)	公職選挙法改正 → 在外選挙制度 を創設 (衆議院及び参議院の比例代表選出議員の選挙のみ)
2000 (平成12年)	公職選挙法改正 → 参議院比例代表選出議員選挙に 非拘束名簿式 を採用
2002 (平成14年)	全国初の電子投票 岡山県新見市
2003 (平成15年)	公職選挙法改正 → 期日前投票制度 の創設 郵便等による不在者投票における対象者の拡大及び代理記載制度の創設
2006 (平成18年)	公職選挙法改正 → 在外選挙の対象となる選挙の拡大 (衆議院及び参議院の選挙区選出議員の選挙) 国外における不在者投票制度の創設 南極地域観測隊の隊員等のファクシミリ装置による投票
2013 (平成25年)	公職選挙法改正 → インターネット選挙運動の解禁 成年被後見人の選挙権の回復
2015 (平成27年)	公職選挙法改正 → 選挙権年齢を 満18歳以上 に引き下げ (施行は公布の1年後)
2016 (平成28年)	選挙権年齢引き下げ後京都市で初の選挙 (第24回参議院議員通常選挙)
2018 (平成30年)	公職選挙法改正 → 参議院比例代表選出議員選挙に 特定枠制度 を導入

京都市選挙管理委員会 ホームページのご案内



選挙について楽しく学べる二つのホームページを
公開しています。

皆さんの訪問をお待ちしています。

京都市選挙管理委員会



選挙フレンズ

選挙はわたしたちのよりよい生活や社会
にかかわるとても大切なものです。政治に
参加するための手段である選挙について楽
しく学んだら、選挙フレンズ検定にチャレ
ンジしてね。

将来は政治家になりたい人！
具体的にどうしたらいいか
調べてみてね。

知っているようでよく知らない、
そんな選挙のあれこれをご紹介
します！

きれいな選挙のための
「三ない運動」を
知っていますか？



選挙フレンズ URL

https://www2.city.kyoto.lg.jp/senkyo/senkyoFriends_html/index.html

選挙フレンズ 検索

新有権者向け

選挙のあれこれまとめサイト

知ッテル!? 選挙

民主主義を維持していくためには、有権者のみなさんが選挙で投票することが重要です。
しかし、現在の日本では投票率は必ずしも高くありません。あなたのまわりに選挙や政治
に興味がない友達はいませんか？

ぜひ皆さんの力で、若い有権者の投票率をアップさせてください。



ありがとう



知ッテル!? 選挙 URL

https://www2.city.kyoto.lg.jp/senkyo/shitteru_senkyo/index.html

知ッテル!? 選挙 検索

明るい選挙 出前授業



将来の有権者である児童・生徒・学生の皆さんに社会の一員であるという自覚を持ってもらい、政治・選挙の意義や重要性などを学習していただくことを目的に、

事務局職員が京都市内の小・中・高等学校や大学等に出向いて「選挙講座」や「模擬選挙」などを行っています。



演説・討論



投票



クイズ



申込方法等は、京都市公式ホームページ「京都市情報館」をご覧ください。

明るい選挙出前授業ページ URL

<https://www.city.kyoto.lg.jp/senkyo/page/0000203689.html>



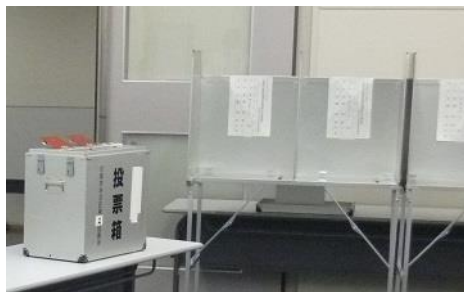
選挙物品 貸出事業



京都市内の学校等に対し、実際に選挙で使用される選挙物品の貸し出しを行っています。生徒会役員選挙等で活用してください。

【貸出物品】

- ・ 投票箱
- ・ 投票用紙記載台 等



申込方法等は、京都市公式ホームページ「京都市情報館」をご覧ください。

選挙物品貸出制度ページ URL

<https://www.city.kyoto.lg.jp/senkyo/page/0000013298.html>



その他



令和4年度は、京都市動物園「8代目アニマル園長選挙」で、ほんまものの投票箱と投票台でリアルな投票を体験していただきました。



投票にきてくれた人には
オリジナル啓発グッズのプレゼントも

京都市・区明るい選挙推進協議会
京都市・区選挙管理委員会

発行 京都市選挙管理委員会事務局
令和5年2月
京都市印刷物 第043140号